

能代厚生医療センター 公開・オプトアウト書式

研究課題名	レセプト等情報を用いた脳卒中、脳神経外科医療疫学調査
情報の利用目的及び利用方法（他の医療機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>超高齢社会の本邦において、後遺障害による寝たきりの原因となる脳卒中の救急治療は大きな課題となっている。緊急性の高い脳卒中治療については、医療機関の集約化、広域化と連携強化が重要となるが、地域特性の整備のためには、全国的な規模での地域毎の実態を調査することが必要である。</p> <p>目的；脳卒中、脳神経外科医療機関の施設情報と、診療の質的評価・治療成績・予後との関連を調査し、その適正な配置について提言を行うことを目的とする。</p> <p>方法；匿名化ツールを用いて、脳卒中、脳神経外科医療を行う施設の入院レセプトデータ、もしくはDPCデータから脳卒中や脳神経外科分野で受療した患者さんの情報を収集する。</p>
利用または提供する情報の項目	疾患名、治療内容、治療成績、予後 等
対象者及び対象期間	2018年4月～2019年3月 退院症例
利用の範囲	<p>研究責任者；九州大学大学院医学研究院 脳神経外科 教授 飯原弘二 先生</p> <p>研究分担者；九州大学大学院医学研究院 病態機能内科学 教授 北園孝成 先生 他</p> <p>多施設共同研究であり、九州大学が総括、情報収集を行う。解析は(株)健康保険医療情報総合研究所(PRRISM)が行う。</p>
試料・情報の管理について責任を有する者	九州大学大学院医学研究院 脳神経外科 教授 飯原弘二 先生
お問い合わせ先	能代厚生医療センター 脳神経外科 太田原 康成 TEL;0185-52-3111
共同臨床研究機関	九州大学大学院医学研究院 脳神経外科
備考	特になし

能代厚生医療センター 公開・オプトアウト書式

申請番号	
研究課題名	レセプト等情報を用いた脳卒中、脳神経外科医療疫学調査
本研究の目的	超高齢社会の本邦において、後遺障害による寝たきりの原因となる脳卒中の救急治療は大きな課題となっている。緊急性の高い脳卒中治療については、医療機関の集約化、広域化と連携強化が重要となるが、地域特性の整備のためには、全国的な規模での地域毎の実態を調査することが必要である。 目的；脳卒中、脳神経外科医療機関の施設情報と、診療の質的評価・治療成績・予後との関連を調査し、その適正な配置について提言を行うことを目的とする。
研究方法（使用・提供する試料等）	匿名化ツールを用いて、脳卒中、脳神経外科医療を行う施設の入院レセプトデータ、もしくは DPC データから脳卒中や脳神経外科分野で受療した患者さんの情報を収集する。 (疾患名、治療内容、治療成績、予後 等)
対象期間	2018 年 4 月～2019 年 3 月 退院症例
研究責任者	九州大学大学院医学研究院 脳神経外科 教授 飯原弘二 先生
お問い合わせ先	能代厚生医療センター 医事課 宮城 康春 TEL;0185-52-3111
備考	特になし